

土木学会 原子力土木委員会 地中構造物の耐震性能照査高度化小委員会
第2回技術文書審議タスク 議事録

日時：2023年6月20日(火) 13:00-15:00

形式：ハイブリット(土木学会会館C会議室+オンライン)

出席者(順不同)：丸山主査(長岡技術科学大学), 酒井副主査(法政大学), 一井康二(関西大学), 坂井公俊(鉄道総合技術研究所), 上田恭平(京都大学)

委任状欠席：石橋忠良(JR 東日本コンサルタンツ),
以下オブザーバー

原子力土木委員会：中村晋(日本大学), 中村武史(電中研)

資料：

2-1 第1回 技術文書審議タスク 議事録

2-2 補足資料1 評価全体の枠組み_Rev1

2-3 補足資料2 補足資料2_屋外重要土木構造物の目標性能

2-4 石橋委員の意見

2-5 タスク審議要領案の抜粋

議 事

1) 第2回技術文書審議タスクの開催について：

本日欠席された石橋委員の委任状をメンバーが確認し、委任状欠席委員を含む全委員の参加もとに第2回技術文書審議タスクを開催することを確認した。

2) 第1回の技術文書審議タスクの議事録について：

全メンバーが確認した議事録を6月20日に開催される原子力土木委員会・幹事会に説明資料とあわせて報告した後、7月31日の原子力土木委員会に報告し、原子力土木委員会として審議した結果が当該小委員会に報告されることが、中村オブザーバーより報告された。

3) 補足資料(2-2, 2-3)に関する意見：

中村(晋)オブザーバーが補足資料2-2, 2-3について説明したのち、丸山主査のもとで意見交換を実施した。

酒井：原子力発電所の重要構造物に対して、解析精度の劣る簡易手法を採用・検討する理由が理解できない。

一井，坂井：対象としている設定や項目がはっきりとしていないにも関わらず、このタスクを進めようとしているように感じる。例えば、対象とする破砕帯はどのような破砕帯なのか、など前提や適用条件を整理していただきたい。

丸山：そのような懸念も含め評価シートの意見欄に書いていただいても良い。それに対して、小委員会として検討，答えを出してもらおう。

一井：取り組もうとしている問題設定がクリアでないところが一番の問題。その状態で文書が出されて終わりそうな危惧を抱く。

丸山：そのような指摘を意見の欄に書いていただきたい。小委員会には、それに応じて絞った議論で答えていただけたら良いと思う。

4) 第1回技術文書審議タスクの位置づけと今後の方針の検討

タスク審議要領(案)の補足説明を中村(晋)オブザーバーより行ったのち、丸山主査のもとで第1回、第2回技術文書審議タスクの位置づけとそのとりまとめ方針について検討を行った。その結果、以下のようにすることとした。

- ・第1回技術文書審議タスク、および第1回に対する補足資料を踏まえた第2回技術文書審議タスクにおける審議の位置づけは、両方をあわせて基本方針段階と中間段階をあわせた技術文書に対するものとする。
- ・技術文書審議タスクの活動の公表（議事録，意見・評価シート）は、対象となる技術文書の公表と対になるべきである。第1回技術文書審議タスクにおいて、説明された技術文書は知財が関係する内容が含まれているため、出版などの公表を経た後でないと公表できないとの説明を受けたが、これまでの議論の議事録や意見・評価シートは対象となる技術文書が併置されてのみ意味が通るので、議事録や意見・評価シートの公開は、技術文書の公表時にあわせて行うものとする。
- ・審議対象となる2つの項目（密な砂地盤の液状化）に対する評価技術と「破砕帯」に対する評価技術）に分けて意見・評価記入シートを作成する。

5) 今後のスケジュール：

中村(晋)オブザーバーより、本日のタスクの議事録および意見・評価記入シートへの対応として、幹事会へ書面審議事項として報告した後、第1回技術文書審議タスクの説明資料と議事録をあわせて7月31日の委員会に報告すること、委員会の審議結果を小

委員会に報告することが示された。

技術文書審議タスクは、意見・評価記入シートを1週間程度で酒井副主査に送り、タスクでとりまとめた議事録とあわせて酒井主査より、原子力土木委員会・中村委員長と中島幹事長に送ることとした。